（９）八　束　小　学　校

学　　校　　長　　太宰　三和
校内研究代表者　　浦田　奈々

１．研究主題　「しっかり聞き、自ら判断し、伝え合える子」

２．主題設定の理由

本校は今年度から旧八束中学校の校舎へと移転した。新校舎は四万十川下流域に位置しており、南海トラフ地震の際には特に津波の危険性が指摘されている。津波到着時間は約25分と想定されているが、学校付近の避難所の高さや設備、避難道の安全性などは決して高いとは言えない。今回の移転に伴い、避難場所や避難経路の再度見直しが必要である。さらに、通学路には土砂崩れの危険性が高い山や古い建物が多くある。したがって、災害時に一人ひとりが迅速かつ慎重に避難できるようにすることが本校の防災学習における最重要課題と言える。

本校は、これまでも防災学習の研究と実践に力を注いできた。昨年度は地震・津波の避難訓練を３回、親子避難訓練（引き渡し訓練）を１回、起震車体験を１回行った。避難訓練後には毎回、児童にふりかえりシートでアンケートを行い、さらに「防災意識調査」を児童と保護者に年間２回実施し、結果を分析・共有してきた。児童・保護者とも防災学習への関心や期待は高く、防災学習や避難訓練に真剣に取り組めている。しかしながら、被災時の家族間での約束や各家庭における防災対策等に差があるなど、防災学習での学びが日常生活で活かし切れていない一面もある。

そこで、高知県学校安全総合支援事業の拠点校となった今年度は、児童一人ひとりがより自分事として防災や減災について考えることができる防災学習の再構築と、保護者や地域への啓発の改善を目ざすために、研究主題を「しっかり聞き、自ら判断し、伝え合える子」とした。この主題を実践するために、防災学習だけでなく、すべての学校生活の中で人の話を静かに最後まで聞くことの徹底や、教科等横断的で探究的な授業実践の中で、主体的で対話的に学ぶ児童の育成を目指した授業づくりを行っていく。１学期の研究授業では、低・中・高学年で授業を行い、協議することで授業改善を図っていく。11月には防災参観日を設け、取り組みの発表をしていくことで、広く保護者や地域への啓発につなげていきたいと考えている。

３．研究の進め方と方法

先進校や講師等に学びながら、より生活に結び付いた実効性の高い防災学習の計画を基にした授業実践や日々の取り組みにより、「しっかり聞き、自ら判断し、伝え合える子」の育成、成果指標の達成、また、児童が被災時に自らの命を自ら守ることができるための資質・能力を育てる。

<u>成果指標</u>

◇防災教育に係る計画（防災マニュアル、危機管理マニュアル、防災教育年間計画、総合的な学習の時間年間計画等）の見直し及び公開授業を実施し、モデル地域等に発信・普及する。〈100%〉

◇防災意識調査（１～６年生児童対象、保護者対象）において、1回目（５月実施）に比べ、２回目（12月実施）に肯定的評価が向上または90%上の項目の割合〈80%〉

◇避難訓練のふりかえりシート（１～６年生児童対象）を避難訓練ごとに実施し、「『おはしも』を守った」及び「本当に災害（地震・津波・土砂災害・洪水等）が来た時のことを考えて、行動できた」の設問に対する肯定的評価〈90%〉

<u>①防災学習の取組</u>

【低学年】　がっこう　だいすき　「学校や通学路で地震が起きた時のために備えよう」
　　つながる広がるわたしの生活「地震について学習したことをみんなに伝えよう」

【中学年】　防災マップを作ろう
　　～防災マップを作り、お世話になっている地域の人に恩返しができるようにしよう～

【高学年】　四万十川と生きる　～防災学習～

②避難訓練の取組

地震・津波、土砂災害・洪水、火災、弾道ミサイルの避難訓練を実施することができた。地震・津波の避難訓練では、高知大学名誉教授・高知大学防災推進センター客員教授　岡村眞先生を招聘することができた。また、参観日には、親子避難場所見学、引き渡し訓練も実施することができた。

③防災意識向上の取組（防災意識調査の実施）

児童・保護者・教職員に防災意識に係るアンケート調査を２回実施し、現状や課題、意識の変容や取組の進捗状況を把握して今後の取組の改善や推進に活用する。

第１回防災意識調査実施　2023 年５月　　第２回防災意識調査実施　2023 年 12 月

④校内研修での取組

夏季休業中には高知大学名誉教授・高知大学防災推進センター客員教授 岡村眞先生を迎え、実際に避難経路を歩き、危険個所や第１・２避難場所を確認した。その後、南海トラフ地震の予想発生時期や八東地区への被害などの講話を聞くことができた。また、８月９日～12 日には、本校の２名の教諭が 311 東日本大震災視察研修に参加､学んだことを伝達講習として全教職員に共有することができた。

⑤防災教育研究発表会

全学級の防災学習授業の公開、５・６年児童による発表、教頭による実践発表を行った。講演会では、元岩手県陸前高田市教育委員会教育長　金賢治さんを講師として招聘し､「今伝えたいこと－東北大震災を体験して－」という題目で講演していただいた。

４．今年度の成果と課題

①防災教育に係る計画（防災マニュアル、危機管理マニュアル、防災教育年間計画、総合的な学習の時間年間計画等）の見直しを５月末までに行い、共有することができた。

１学期に全学年で公開授業を行うことができた。

11 月の防災教育研究発表会や６月と 10 月に防災教育実践委員会でモデル地域等に発信・普及ができた。　達成率 100%

②防災意識調査１回目に比べ２回目の肯定的評価が向上　児童 91%　保護者 64%

90%以上の割合　児童 45%　保護者 36%

③避難訓練のふりかえりシート

「『おはしも』を守った」94%

「本当に災害が来た時のことを考えて、行動できた」97%

○全学年の防災学習で、避難タワーの見学やフィールドワークで調べたことを、防災マップやスライド等にまとめ、発表することができた。

○今年度の取組から学んだことも多くあったが、特に高学年では、前年度までの学びも生かしながら防災学習を進めることができていた。

○避難訓練では、地域の方にも参加していただくことができた。また、防災学習を進める中で、地域の方、保護者はもちろん、保育所、各関係機関との連携を数多くとることができた。

○岡村眞先生や金賢治さんの講演会、311 東日本大震災視察研修から、より実践的な学びがあり、教職員の防災意識や指導力の向上につながった。

●児童や教職員、特に保護者の意識を向上させていくために、更なる実践が必要となる。10 月の防災参観日にはこども防災キャンプも予定しており、保護者の防災意識向上にもつなげていく。

●避難訓練では、「お・は・し・も」を守って、自分の命を守るために真剣に訓練できている児童が多いが、一部の児童が途中で話をしてしまう児童もいるので、なぜ話してはいけないかなどの指導を続ける必要がある。また、避難訓練では、被害の状況に応じて、自分で判断して避難できるように、今年度よりも様々な状況を設定して行っていく必要がある。

●防災教育研究発表会公開授業における参加者のアンケートより､「放送が聞けていない児童がいた。」という感想があった。自分の命を守るために､「聞く」ことの徹底を日々の指導の中で徹底していきたい。